## 三菱UFJリサーチ&コンサルティング - 今和への挑戦

項について解説する。 は、供給側が留意すべき事 項について解説した。今回 て、調達側が留意すべき事 ンにおけるリスクに対し 前回は、サプライチェー について聞かれることが多 ン、地域社会との共生など は、内部統制、内部通報制 い。例えば、ガバナンスで 度、BCP等について確認 される。法令順守では、イのをもって「はい」「いい

るかどうかを確認する点で の構築状況の確認になると ある。方針の有無だけであ れば回答は明確だが、態勢 めの仕組みが構築されてい 定の有無だけではなく、当 等を確認される。 該項目について、取り組み 結果を確認し、是正するた 特徴的な点は、方針や規

> くら・ゆきこ) コンサ グ部コンサルタント GRCコンサルティン ルティング事業本部 永倉 由紀子(なが



ある。態勢構

## 供給側が留意すべき事項

と統合して管理することに

たることに驚 一般的な調 サプライチェーンリスク(3)

くだろう。

場合、調査項目が広範にわ

トを受け取ると、多くの

取引先からのCSRアンケ

供給側の企業担当者が、

境、品質・安全、情報セキ 法令順守、人権、労働、環 査項目として、ガバナンス、 ンサイダー取引の禁止や知 労働では、差別の禁止、 的財産の侵害防止等、人権

ュリティ、サプライチェー 強制労働、児童労働の禁止

か迷ってしまうこを構築する必要がある。態 とも多いだろう。

を供給している企業は、こ 業に対して商品・サービス 日本を代表するような企 トの回答を一元管理するこ

え」を回答すべき ことを踏まえ、早急に態勢 るかどうか言い切れない」 担当部署を決め、アンケー ケートを受け取った場合の 勢構築の前に、まずはアン といった迷いが生じるかも 取締役会など、しかるべき いることを基準にするのも 会議体に対して報告されて しれない。その場合には、

など、全社の状況を把握し 作ることができる。 を反映した回答を一元的に これによって、全社の実態 ている部署が適切である。 の強みと弱みを認識し、弱 て取締役会で報告し、自社

部署は経営企画、総務部門

がそろったら、現状も含め

ングを行い、精度を高める の回答をたたき台レベルで 長や取締役などへのヒアリ 作成する。たたき台は、社 次に、アンケート項目 ことが重要で にとっては、負担に感じる り管理していなかった企業 必要な態勢を構築していく みと感じる点については、 事項を従来の財務リスク等 かもしれないが、これらの 直結するリスク以外はあま べきである。 製造や財務などの業務に

7

のようなアンケートがある とを全社に通知する。担当 一つの考え方だろう。回答 築について は、「できてい 進めている企業も少なくな よって、効果的・効率的に ての持続的な成長を目指 ていくことが望まれる。 に受け入れられる企業とし 発揮して、グローバル社会 締役会がリーダーシップを い。社長をはじめとする取

(毎週木曜日に掲載

